

山陰ワイド 経済政治

発光ダイオード(LED)

の製造、販売を手掛けるトリコン(島根県邑南町、上田康志社長)は、商社や電機メーカーなどに部品としてLEDを供給する一方で、技術力の高さを生かして独自の製品開発に力を入れている。

同社は、大手電機メーカーの下請けとしてLEDを製造していた島根県智電子を母体に二〇〇〇年、上田社長が設立。信号機や表示板などに使用

トリコン (島根県邑南町)

発光ダイオード製造、販売

外貨に挑戦

山陰発のビジネス

<17>

する砲弾形LEDの受託生産を主力事業として、LEDを開発するな着実に業績を伸ばしてき、技術力には定評がある。

二〇〇七年十二月期の売上高は三億一千万円で、ほぼ全額が県外企業との取引。製造する商品は取引先を通じて米国やヨーロッパにも輸出されている。LEDは、電球や蛍光灯よりも消費電力が少

欧米にも輸出、技術誇る



トリコンのLEDの生産現場。高い技術力に定評がある—島根県邑南町中野

色や形をアレンジすることができるとが特長。LEDはアイデア次第でさまざまな商品開発につながる魅力がある。

上田社長は「物があふれている現代では、自分の感性に合わせて作りあげていく商品が求められている」と、消費者の感性やニーズに合わせることでできる商品づくりを重視する。

上田社長は大手電機メーカー勤務を経て帰郷したUターン組。地元への愛着は強く、「最終商品の割合を増やすことで、獲得できる外貨も増えていく。地元企業の材料を使えば、地域活性化にもつながる」と話す。事業が軌道に乗れば、高齢者の活用やUターン者の受け入れにもつながると、夢を膨らませている。

一昨年、石見銀山の採掘時に明かりとして使われた「螺灯(らとう)」が、上田社長は「銀まぶらとつで得た商品開発のノウハウを生かし、(上田社長)の中にあっの間に「発。お土産用として道今後も魅力のある商品を開発中。チューブの差し込み方を変えることで、

を見据える。

現在、赤や青などさまざまな色のLEDに透明なチューブを差し込むタイプのインテリア用品を開発中。チューブの差し込み方を変えることで、